

研究計画概要書

(博士前期課程)

受験番号

※

記入上の注意など

- ① 選考の際の重要な資料にします。できるだけ具体的に書いてください。
- ② 簡潔にまとめ、スペース内に収まるように記入してください。
- ③ なお、この書類とは別に研究計画書(3,000字程度、A4版)を4部提出すること。

ふりがな	やまuchi ゆうじ	希望する指導教員名
氏名	山内 雄司	贊川信幸 教授

I. 研究課題 就労移行支援における本人側アセスメント構造の再構築

— 累積環境因子と複式簿記メタファーによる自己受容支援フレームワークの開発 —

II. 目的・内容 (明らかにしたい事柄を具体的に)

就労移行支援のアセスメントは、本人が自ら意思を形成し、望む働き方を選択する基盤である。しかし現状は、認知機能や職業準備性など個人因子に偏り、ACEs や教育機会の欠落など時間軸を通じて累積する環境因子が体系的に扱われていない。また就労の成否は、個人能力だけでなく職場文化や合理的調整の実行可能性といった企業側因子にも大きく影響されるが、日本にはそれを評価する枠組みが欠如している。本研究では、ICF による環境因子の整理、CA (ケイパビリティアプローチ) の選択可能性の視点、国際的実務モデルを参照した企業側因子の理解を統合し、累積不利・意思形成・企業側調整要求を三層で捉えるアセスメントモデルの再設計を目的とする。また、複式簿記メタファーを用いた自己受容支援フレームワークを適用し、本人が育成歴・現在地・選択可能性を構造的に理解できるプロセスを明確化することで、従来の個人能力中心のアセスメントを再定位することを目指す。

III. 計画・方法 (できるだけ具体的に箇条書きにすること)

【第1年次】

- ・ ICF・CA・ACEs・TIC の文献整理 (理論基盤の明確化)
- ・ アセスメントを比較し個人因子偏重と環境因子欠落を分析
- ・ 匿名化記録を質的再分析し、累積不利→認知・感情・行動
→職業準備性の因果構造を整理
- ・ 大言語モデルを用いた PL/BS/CF 可視化の PoC を実施
(技術開発ではなく理論検証)

【第2年次】

- ・ 値観・希望・PL/BS/CF・累積環境因子を統合した本人側アセスメント項目案を作成
- ・ 支援者による妥当性評価 (明確性・実行可能性)
- ・ 当事者・支援者・組織の情報境界線 (過去現在未来) を整理
- ・ PoC の総合評価を行い、本人側アセスメントの再設計モデルとして提示する

IV. 研究の特色 (先行研究を踏まえた上で、あなたの研究の独創的なところや意義を書くこと)

本研究は、ICF・CA・ACEs・TIC などの先行研究を基盤に、従来の個人因子中心のアセスメントを、育成歴や累積環境因子、自己受容プロセスを含む本人側モデルへ再構成する点に独自性がある。複式簿記メタファーによる PL・BS・CF を用いて、自己理解と職業準備性を結びつける構造を可視化し、情報境界線の整理によって過剰な個人情報依存に頼らない新たな本人側アセスメント像を提示する。

V. これまでの活動との関連 (志望理由を含める)

私は就労支援の現場で十年以上、多様な利用者の就職支援と定着支援に携わってきた。その中で、就労の成否は本人の努力だけでは説明できず、育成歴・家族背景・教育機会などの累積的な環境因子が意思決定や職業準備性に大きく影響することを実感した。また離職の背景には、本人要因ではなく環境理解の不足が関与する事例も多く、アセスメントの構造的課題を強く認識した。こうした経験から、累積不利と自己受容プロセスを統合した本人側アセスメントの再構成を学術的に明確化したいと考え、本研究を志望する。